

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 へき地診療所医師派遣強化事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 医療人材確保係 電話番号：058-272-1111(内3278)

E-mail : c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 18,547 千円 (前年度予算額) 21,350 千円

<財源内訳>

| 区分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|---------|---------|-----------|-------|-------|-------|-----|--------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使 用 料 手数料 | 財 産 入 | 寄 附 金 | そ の 他 | 県 債 | 一 般 源 |
| 前年度 | 21,350 | 10,675 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10,675 |
| 要求額 | 18,547 | 9,273 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9,274 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県内の医師数は全国平均数を大きく下回っており、医師不足は深刻な状態となっている。

| | |
|-------------------------|--------------------|
| 人口10万人当たり医療施設従事医師数 (R4) | 全国平均 262.1人 |
| 〃 | 岐阜県 231.5人 (全国38位) |

特に、へき地においては、その状況が深刻であり、十分な医療の提供を受けられない地域もある。こうしたへき地の唯一の医療機関であるへき地診療所へ県内の医療機関が医師を派遣することにより、医師の地域偏在を緩和し、地域医療を確保していく必要がある。

(2) 事業内容

県内の医療機関が、へき地医療を支えるため、自病院に勤務する医師等をへき地診療所に派遣し、診療支援を行う場合に必要となる人件費等に対し補助する。

- ・派遣元医療機関：県内医療機関
- ・派遣先医療機関：県内のへき地診療所（47か所）
- ・対象経費：医師派遣にかかる経費（人件費等）

(3) 県負担・補助率の考え方

国庫補助金（医療施設運営費等補助金及び中毒情報基盤整備事業費補助金）を活用
※補助率10／10（県1／2 国1／2）

(4) 類似事業の有無

同様の国庫補助を活用したへき地医療拠点病院運営費補助金があるが、補助対象はへき地医療拠点病院であり、本事業はそれ以外の県内医療機関が対象である。

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|--------|-----------------------------|
| 補助金 | 18,547 | へき地診療所に医師を派遣する県内医療機関に対する補助金 |
| 合計 | 18,547 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県保健医療計画（第8期）

第3部第2章 医療提供体制の構築

第9節 へき地医療対策

(2) 国・他県の状況

既存の「へき地医療拠点病院運営事業費」等により、へき地医療を支援する体制の整備及び地域医療の支援が行われている。

(3) 後年度の財政負担

へき地医療体制の安定的な運営の為、引き続き、支援していく必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

へき地医療提供体制の確保は、市町村域を超えて、より広域的に取り組むべきものであることから、県が補助を行うことは妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

へき地における唯一の医療機関であるへき地診療所においては、自ら医師の確保をすることが非常に困難な状況にある。

県内の医療機関がへき地の医療を支えるために、医師確保が困難なへき地診療所医に対して医師を派遣することを支援することで、地域医療を確保する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (H18) | R6年度 実績 | R7年度 目標 | R8年度 目標 | 終期目標 (R8) | 達成率 |
|--------------------|----------------|----------------|------------|------------|--------------|-----|
| ① 人口10万人対医療施設従事医師数 | 173.0人 | 231.5人 (R4) | 245.5人 | 249.5人 | 249.5人 | 93% |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|---|
| 令和4年度 | ・取組内容と成果を記載してください。 令和4年度は、1医療機関が当事業を活用して5つのへき地診療所へ医師派遣を行った。 へき地診療所へ医師が派遣されることにより、へき地における診療体制の確保された。 指標① 目標：235.9人 実績：224.5人 (R2) 達成率：95.2% |
| | ・取組内容と成果を記載してください。 令和5年度は、1医療機関が当事業を活用して6つのへき地診療所へ医師派遣を行った。 へき地診療所へ医師が派遣されることにより、へき地における診療体制の確保された。 指標① 目標：249.5人 実績：231.5人 (R4) 達成率：92.8% |
| 令和6年度 | ・取組内容と成果を記載してください。 令和6年度は、1医療機関が当事業を活用して5つのへき地診療所へ医師派遣を行った。 へき地診療所へ医師が派遣されることにより、へき地における診療体制の確保された。 指標① 目標：249.5人 実績：231.5人 (R4) 達成率：92.8% |
| | |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

| | |
|---|--|
| (評価) 2 | 山間へき地においては、医療機関や従事する医療人材が十分でなく、地域医療体制を確保するため支援を行うことが必要である。へき地診療所は、へき地医療確保において重要な役割を持っており、その支援行う医療機関に補助を行う当事業は必要性が高い。 |
| ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) | |
| 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) 2 | |
| 1 | へき地診療所を支援する医療機関が今後も引き続き支援を行うためには、財政的な基盤が必要であるが、患者数の減少等によりその経営基盤は弱いため、財政的な補助を行うことによりその運営を支援する当事業は有効である。 |
| ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) | |
| 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) 1 | へき地医療拠点病院には指定されていないものの、医師派遣の能力のある医療機関を広く補助対象としていることで、比較的医療人材が豊富な地域から不足する地域への移動の流れができ、県内の医師等医療人材の効率的な活用が図られている。 |

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

県内の医療機関においては、医師の偏在等により、医師不足問題を抱えている。

(次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

継続的なへき地医療提供体制の確保のため、引き続き事業を実施する必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|----------------------------|--|
| 組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 | |
| 組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など | |